



## 岐阜信用金庫



2023年7月25日

### 堀伊木材 株式会社との

### ポジティブ・インパクト・ファイナンスの契約締結について

岐阜信用金庫（理事長 好岡 政宏）は、持続可能な社会への貢献を共に実現するため、堀伊木材 株式会社（代表取締役社長 堀 統行）と、「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」の契約を締結いたしましたのでお知らせします。

岐阜信用金庫は、引き続き、地域金融機関としての責任を果たし、ポジティブ・インパクト・ファイナンスの普及と持続可能な社会を実現するために、お客さまの目標にあわせたサポートを行い、ポジティブな社会的、環境的、経済的なインパクトの実現に積極的に取り組んでいきます。

#### 記

##### 【契約内容】

融資金額	50百万円
期間	7年
資金用途	事業資金

##### 【企業概要】

発行企業名	堀伊木材 株式会社
所在地	岐阜県本巣郡北方町東加茂2丁目76番地
代表者	堀 統行
事業内容	新築住宅建築、住宅リフォーム、不動産売買
資本金	10百万円
設立	1970年5月14日
第三者評価機関	株式会社 格付投資情報センター 評価レポート： <a href="https://www.r-i.co.jp/rating/esg/index.html">https://www.r-i.co.jp/rating/esg/index.html</a>

以上

**堀伊木材株式会社**  
**ポジティブインパクトファイナンス評価書**

2023年7月25日

GIFUSHIN



おかげさまで100周年

岐阜信用金庫は、堀伊木材株式会社（以下、「堀伊木材」）に対してポジティブインパクトファイナンス（以下、「PIF」）を実施するにあたって、同社の事業活動が環境・社会・経済に及ぼすインパクト（ポジティブインパクトおよびネガティブインパクト）を分析・評価した。この分析・評価は、国連環境計画金融イニシアティブ（UNEP FI）が提唱した PIF 原則および PIF 実施ガイド（モデル・フレームワーク）、ESG 金融ハイレベル・パネルにおいてポジティブインパクトファイナンスタスクフォースがまとめた「インパクトファイナンスの基本的考え方」に則ったうえで、岐阜信用金庫が開発した評価体系に基づいている。

## 目次

<b>1. 事業概要</b> .....	3
(1)企業概要 .....	3
(2)沿革.....	3
(3)事業内容 .....	4
(4)経営理念 .....	5
<b>2. サステナビリティ</b> .....	6
(1)SDGs への取り組み.....	6
(2)住みやすく、環境に配慮した家づくりの推進 .....	7
(3)高品質な家づくりを実現する協力会社を含めた人材・職人の確保、育成 .....	8
(4)地域貢献への取り組み .....	8
<b>3. インパクトの特定</b> .....	10
(1)バリューチェーン分析 .....	10
(2)インパクトレーダーによるマッピング .....	11
(3)特定したインパクト .....	15
(4)インパクトニーズの確認 .....	19
<b>4. KPI の設定</b> .....	22
<b>5. モニタリング</b> .....	25
(1)堀伊木材におけるインパクトの管理体制 .....	25
(2)当金庫によるモニタリング.....	25
(3)モニタリング期間.....	25

## 1. 事業概要

### (1)企業概要

企業名	堀伊木材株式会社
本社所在地	岐阜県本巣郡北方町東加茂2丁目76番地
代表者	代表取締役社長 堀 統行
資本金	1,000万円
売上高	1,016百万円(2022年7月期)
創業	1960年4月
設立	1970年5月
事業内容	・新築住宅建設 ・住宅リフォーム ・不動産売買
従業員数	16名(2023年4月現在)
許認可	・建設業 岐阜県知事許可(般-3)第982号 ・不動産業 岐阜県知事免許(8)3515号

### (2)沿革

1960年	木材販売と建築請負を主力事業として個人創業
1965年	製材業へ事業拡大
1970年	堀伊木材株式会社として法人設立
1992年	不動産業へ事業拡大
2002年	現代表取締役が代表取締役に就任

### (3)事業内容

同社は岐阜県本巣郡北方町に本社を構える総合建設事業者である。

建築請負と木材販売を主要事業として創業した同社は、地域密着型の建設事業者として一般住宅を主要ターゲットとした建築業を展開し、平成 5 年には不動産業へ事業を拡大するなど営業エリアにおける住環境を総合的にサポートしてきた。

過去には公共工事も手掛けてきた同社であるが、営業エリア内のエンドユーザーに特化する方針のもと公共事業からは撤退し、現在では一般住宅および事業用店舗等への対応に注力している。

同社では木造建築に特化した専門店として設計・建築・メンテナンスの一貫対応にこだわりを持ち、新築案件に加えて既存物件のリフォーム・リノベーション案件対応についても強化を図り、「長く・快適に住める家づくり」を通じて営業エリアにおける住環境を総合的にサポートしている。

同社は家づくりの最重要ポイントとして「地盤」、「基礎」、「構造」の 3 項目を設定し、大切な家族が安心して暮らすことのできる家づくりを推進している。

	<p>【地盤へのこだわり】</p> <p>建設予定地については第三者機関による綿密な地盤調査を行い、調査に基づき適切な地盤強化工事を実施している。</p> <p>第三者機関の調査を通過することにより、20 年間の地盤保証を実現している。</p>
	<p>【基礎へのこだわり】</p> <p>法規上、構造計算が不要となる木造 2 階建てに関しても一棟一棟構造計算を行い、基礎強度の向上・均一化を実現している。</p>
	<p>【構造へのこだわり】</p> <p>日本の気候風土に合った木造軸組在来工法を採用し、適材適所の木材種別の利用によって地震にも強く耐え、高温多湿の気候にも適した家づくりを実現している。</p>

#### (4)経営理念

##### ①経営理念

###### 「基本方針」

1.「お客様の笑顔が当社の宝です」「ホリモクはお客様の笑顔を追い続けます」

これは、お客様に出会ってから、誠実に工事をさせて頂き、最後の引っ越しの時に、お宅に頼んでよかったと笑顔で言って下さる事が最大のやりがいであるという事。もちろん、アフターフォローが大事である事は言うまでもない。

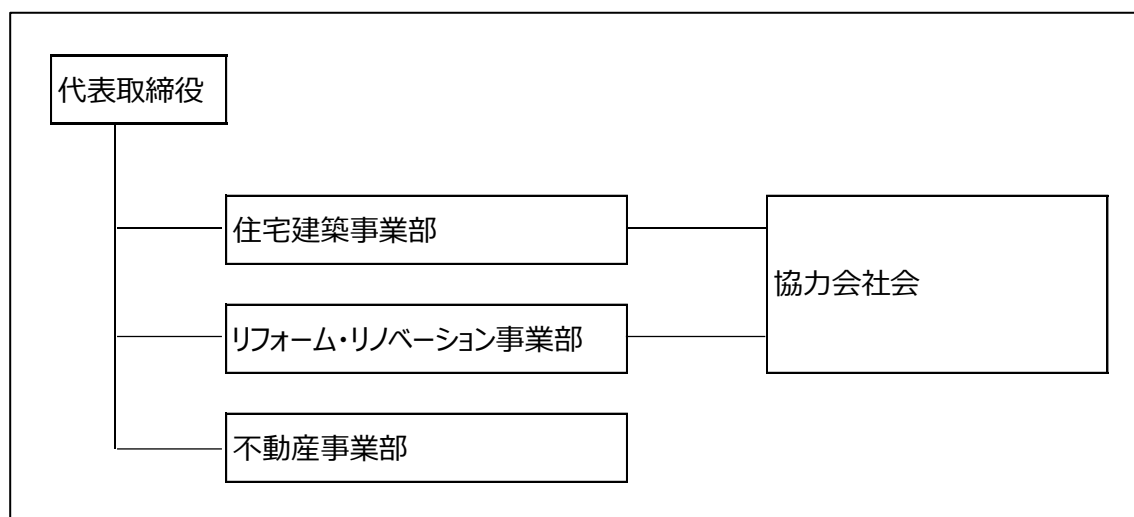
2.「感謝の念を忘れない」

##### ②組織体制

同社では代表取締役の統括の下、住宅建築事業部、リフォーム・リノベーション事業部、不動産事業部の3事業部にて事業展開を実施している。

各事業部においては、従業員は顧客1世帯1世帯に対し商談から設計、施工管理までを同一担当者にて一貫対応することを原則としており、部門間をまたいでの対応についても柔軟に実施している。

また、同社の提供する高品質住宅関連サービスの提供に欠かせない職人集団については協力会社会を組織し、高品質な住宅建築技術を安定的に提供できる体制を整備している。



## 2. サステナビリティ

### (1)SDGs への取り組み

同社では「建設業界における SDGs のご提案」として、同社事業展開における SDGs 達成に向けた取り組み事項を掲げ、持続可能な社会の実現に寄与する事業活動を展開している。



身も心も癒される、  
自然素材の健康住まい



エコ住宅でエネルギーを創り  
持続可能な未来へ



緑の技術で未来を築く、  
国産材の力



次世代へ繋ぐ、木造住宅の  
持続可能な街作り



木材プレカットを通じて、  
資源の持続的な管理と活用を



森が創る気候の安定



森の息吹が海を照らす  
持続可能な未来のために



木の循環を通じた  
未来への道筋



森の守り手と木材業者が  
共に手を組み、緑の軌跡を描く



## (2)住みやすく、環境に配慮した家づくりの推進

同社は木造建築に特化した専門店として事業を展開しており、自然素材である木材による健康住まいを原則としている。

この木造建築へのこだわりは、

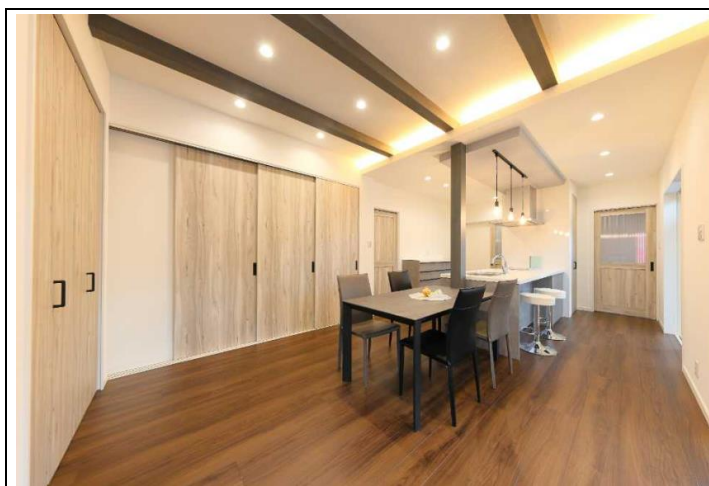
- ① 木材による湿度調整機能、室内空気の浄化機能による住居者の健康への好影響
- ② 熱伝導率が低い木造住宅による夏は涼しく冬は暖かい室内環境の維持を通じたエネルギー消費の抑制、適切な温度管理によるストレス軽減や睡眠の質の向上
- ③ 自然の風合いや香りのある木造住宅によるストレスの軽減や心身の癒しを通じた居住者のメンタルヘルスの向上

といった効果を通じての住む人々の健康と福祉の増進を目指すものである。

また、同社ではこの木造住宅へのこだわりをベースに、木材・建材・クロス等の素材に含まれる水分(結合水)に水溶性の2種類の鉄( $Fe_2 \cdot Fe_3$ )ミネラルを含浸させる「FFCテクノロジー」を活用した免疫住宅、カラダに優しい次世代冷暖房システムである光冷暖、全館空調システムといった機能を居住者のニーズに応え組み合わせ、顧客1世帯1世帯の理想の住まいの実現へと取り組んでいる。

この顧客1世帯1世帯の理想の住まいの実現に向けては、顧客の住まいへのイメージを具現化していくためモデルハウス等を活用しながら、商談から設計、施工管理までを同一担当者にて一貫対応することで顧客との関係性を深めることで対応しており、施工現場を担当する協力会社職人についても、施工開始時に施主へ顔写真入りのプロフィールカードを用いて紹介するなど、安心して家づくりを任せられる環境整備に努めている。

また、設計においては風水を考慮した設計を取り入れ、風水学・統計学に基づく鑑定書を提示するなど、様々な角度から顧客満足を高めている。



図面や写真のみでは伝わりづらい空間における素材感や同社木造建築へのこだわりを可視化するとともに、顧客の住居へのイメージを具現化させる場として同社ではモデルハウスを積極活用しており、年間を通じて平均3棟のモデルハウスを展示している。

(3)高品質な家づくりを実現する協力会社を含めた人材・職人の確保、育成

同社では「社員は家族と同じ」との考えのもと、協力会社を含めた従業員を大切に、年間  
 の案件規模数と比較し少数精鋭での事業運営を実現している。

この少数精鋭での事業運営に向け、従業員には営業から設計、現場監督といった複数業務を横  
 断的に実施できるためのスキルアップを支援しており、定年制度を設けず長くやりがいをもって働け  
 続ける環境を整備している。

また、家づくりにおいては多種多様な工程を経ることとなるが、同社の高品質な木造建築を実現し  
 ていくために必須となる各工程を担当する職人については、同社専属の大工 10 名をはじめとして協  
 力会社を組織し、協力会社間でのコミュニケーションを同社が取り持つことで地域における職人集  
 団の協力体制を形成し、同社建築事業の安定提供と地域における雇用創出を両立させている。

(4)地域貢献への取り組み

同社は主要営業エリアを本社から半径 10km 以内と設定し、地元認知度を高め地域密着型  
 の事業展開を図っている。

この地域密着型の事業展開の中では地域貢献活動として 15 年間にわたって「ホリモクまつり」  
 を年 1 回開催してきており、2 日間の開催で 1,200~1,400 名の来場者を記録するなど地域  
 交流の場を提供してきた。

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、「ホリモクまつり」の在り方を再検討した結果、現在で  
 は年 2 回の体験型イベント「ホリモク村」を開催しており、イベント内では同社従業員および協力  
 会社職人による木工教室等を通じて地域の子どもたちへの木育、職人技術の体験の場を提供  
 している。

家づくりをお考えの方も、  
 考えていない方も  
**家づくりの楽しさが分かる2日間**  
 6月3日(土)・4日(日) 9:30~16:30 楽しいお祭りです！

**木村屋さん**  
 ●ウッドプレートを作ろう  
 親子で一緒にデコって  
 楽しい♡お祭り

**エクステリア屋さん**  
 ●キーホルダーを作ろう  
 タイルを貼って  
 キーホルダーや  
 ペンダントを作ろう

**板金屋さん**  
 ●鉄板(板金)で  
 メタルプレートをつくろう  
 自分の名前を打て  
 打ったプレート  
 を完成させよう

**サッシ屋さん**  
 ●スマホスタンド  
 づくり  
 アルミを切ってスマホ  
 スタンドをつくろう

**瓦屋さん**  
 ●キャラクターを作ろう  
 瓦の材料の粘土でキャラクターを作ろう。  
 カッコいい顔や  
 可愛いウサギなど  
 自分の好きなキャラ  
 クターを作っちゃおう

**木工教室**  
 ●道具箱をつくろう  
 自分だけの木工道具箱をつくろう  
 スタッフがサポートしてくれる  
 から楽しくつくれます

**左官屋さん**  
 ●漆塗りアートで  
 楽しもう  
 本工教室で作った木工道具  
 箱に漆塗りを使って色づけ  
 自分好みの絵を描こう

**電気屋さん**  
 ●手作り延長コード  
 制作体験  
 1m~3mまで好きな  
 長さで作れます！

**リフォーム屋さん**  
 ●お風呂・洗面・トイレの展示会  
 & リフォーム相談会  
 最新商品や最新のトレンド「実物」を展示します。  
 実物展示だから工事の興味のなイメージが  
 できます

**塗装屋さん**  
 ●色塗り体験  
 原色のうちわに色を塗って  
 オリジナルのうちわを作り  
 ましょう

**住まいの相談  
 コーナー**  
 ●新築をお考えの方  
 ●リフォームをお考えの方  
 ●基礎屋さん

**キッチン**  
 ●初登場 キッチンカー 無料  
 人数のキッチンカーが登場！  
 3日(土)・4日(日)、大判焼き、いなり寿司など  
 4日(日)・天丼、わらもち、パフェ、  
 から揚げ、いなり寿司  
 数量限定なのでお早めに！

木の家ならホリモク  
**ホリモクの家**  
 堀伊木材株式会社  
 TEL.058-324-2837  
 〒501-0426 岐阜県本巣郡北方町東加茂2-76  
 http://www.horimoku.com/

また、地域密着型の事業展開を志向する同社においては、顧客1名1名に対する手厚いフォロー体制を整備している。

建築後のアフターフォローはもちろんのこと、月間で同社オリジナルの広報紙である「ありがとう通信」を顧客リスト約2,700件へと送付するなど既存顧客との関係性の維持、向上に努めてきた結果、同社年間受注案件の約50%が既存顧客からの紹介案件になるなどの成果へとつながっている。

全館空調・自然エネルギー活用・省エネ・健康志向の住まいを実現する「あざな」の取り組み

## ありがとう通信

2023年6月号 Vol. 214  
6月中旬～7月のイベント情報

◇【モデルハウス見学会開催】7/1(土)～7/2(日) 9:30～16:30  
「上真桑モデル・浅木モデル」2現場同時見学会

◇【リフォーム相談会】6/17(土)～6/18(日) 10:00～17:00 『アビタ北方店內/中央入口にて』

◇【リフォーム相談会】7/1(土)～7/2(日) 10:00～17:00 『アビタ北方店内/中央入口にて』

◇【リフォーム相談会】7/15(土)～7/17(日) 10:00～17:00 『アビタ北方店内/中央入口にて』

皆様こんにちは！いつもお世話になっております。かおりです。  
最近よく暑くなってまいりましたね！  
私、暑いのが苦手なので、これからの季節は幸いです。☺  
暑い夏がやってくる前に、ジメっとした梅雨がきますね！これもまた様々な時期です…。

さて梅雨、6月20日は梅の日にちなんで「梅の日」を記念して「健康住宅の日」です！って知らないですよね？私も初めて知りました！  
知らない方が多いと思いますが、名称から分かるように住宅と健康について考える日とされています。住宅の健康とそこに住む人の健康を守るためにさまざまな研究活動を行うNPO法人日本健康住宅協会が、健康住宅の大切さをアピールすることを目的に制定しました。日付は、カビをはじめとする健康被害が懸念される梅雨の時期であることから、この日に制定されたようです。

そこで、カビについて！  
我々の生活圏では、お酒、味噌、醤油などを作るためにコウジカビは欠かせません。また、茶としてパニシウムなどのような微生物を有効にした例が多くあります。しかし一方で微生物をうまく扱わなければ、色んな健康被害が起こります。カビは経口・経皮・吸入によって人の健康に影響を与えます。  
カビによる健康への悪影響としては、アレルギー、感染症、気管支炎への影響などが挙げられます。また、抵抗力が低下すると使用する化学物質にも毒性の強いものが含まれていることが多くあり、使用方法によっては健康に影響を及ぼす可能性があります。カビが原因となる疾患には、真菌症、マイコトキシン中毒症、真菌過敏症があります。詳しくは、一番最後のページで紹介しました！

日頃からカビが生えないような生活環境を作ることで薬剤に頼らない生活を送ることが大事です。その際にも、もうすぐやってくる梅雨に備えたいですね！

ホリモクでは、「健康住宅」を取り扱っております！  
お部屋の空気がキレイになる施工方法です。最新の空調は個別の部屋が採用されています。アレルギーやぜんそく、アトピーの方には特にオススメです！  
金属表面への細菌付着もしにくいという実験結果も出ています。

この機会にぜひ、免疫住宅をご検討されてみてはいかがでしょうか？  
リフォームで免疫加工も出来るようになりましたので、ご興味のある方は、お気軽にお問い合わせくださいませ！

カビの種類  
◇真菌症  
真菌症は、皮膚から侵入して病変を起こす常在性のものと呼吸や経口で体内に侵入して障害を及ぼす常在性のものがあります。  
これらはアレルギー反応からではなく、カビ(真菌)自体が原因となって感染症を引き起こします。カビによる感染症は、そのほとんどが病変や何らかの理由で免疫力が低下している人に感染する。このような感染を日和見感染といいます。

◇マイコトキシン中毒症  
マイコトキシンとは、真菌が生産する毒素のことをいい、主にアスペルギルス属のトキシン、パンシウム属のトキシン、フザリウム属のトキシンがある。マイコトキシンは、真菌が増殖できる環境、言い換えれば、真菌の生育によって好環境下で生産されるため水気物を多く含む穀物類(米、ナッツなど)があるところで大量生産されます。この毒素はたんぱく質ではないため、熱に強く、調理しても毒素は分解されません。

◇真菌過敏症  
空中浮遊している真菌の胞子が抗原となつて、気管支喘息、アレルギー性鼻炎、結膜炎、じんましん、アレルギー性皮膚炎、過敏性肺炎などを引き起こします。

シックハウスの原因となる有害な化学物質やカビ、そして悪玉菌など私たちの身の回りには目に見えない危険がたくさん潜んでいます。  
食事や水には気をつけていても、絶えず吸って吸って吸っている空気について意識されている方は少ないのかも知れません。  
免疫住宅では、独自の加工技術で壁紙や床材、家具などで発生する有害な化学物質を中和し悪玉菌を抑え善玉菌を活性化させる塗膜技術で空気環境を整える画期的な技術です。  
(株式会社ウツサークル、IMM-zero株式会社より引用)

二〇二三年 社長の話 第六弾

いつもお世話になっております。かおりです。梅雨、6月20日は梅の日にちなんで「健康住宅の日」を記念して「梅の日」を記念して「健康住宅の日」です！って知らないですよね？私も初めて知りました！知らない方が多いと思いますが、名称から分かるように住宅と健康について考える日とされています。住宅の健康とそこに住む人の健康を守るためにさまざまな研究活動を行うNPO法人日本健康住宅協会が、健康住宅の大切さをアピールすることを目的に制定しました。日付は、カビをはじめとする健康被害が懸念される梅雨の時期であることから、この日に制定されたようです。

そこで、カビについて！  
我々の生活圏では、お酒、味噌、醤油などを作るためにコウジカビは欠かせません。また、茶としてパニシウムなどのような微生物を有効にした例が多くあります。しかし一方で微生物をうまく扱わなければ、色んな健康被害が起こります。カビは経口・経皮・吸入によって人の健康に影響を与えます。  
カビによる健康への悪影響としては、アレルギー、感染症、気管支炎への影響などが挙げられます。また、抵抗力が低下すると使用する化学物質にも毒性の強いものが含まれていることが多くあり、使用方法によっては健康に影響を及ぼす可能性があります。カビが原因となる疾患には、真菌症、マイコトキシン中毒症、真菌過敏症があります。詳しくは、一番最後のページで紹介しました！

日頃からカビが生えないような生活環境を作ることで薬剤に頼らない生活を送ることが大事です。その際にも、もうすぐやってくる梅雨に備えたいですね！

ホリモクでは、「健康住宅」を取り扱っております！  
お部屋の空気がキレイになる施工方法です。最新の空調は個別の部屋が採用されています。アレルギーやぜんそく、アトピーの方には特にオススメです！  
金属表面への細菌付着もしにくいという実験結果も出ています。

この機会にぜひ、免疫住宅をご検討されてみてはいかがでしょうか？  
リフォームで免疫加工も出来るようになりましたので、ご興味のある方は、お気軽にお問い合わせくださいませ！

カビの種類  
◇真菌症  
真菌症は、皮膚から侵入して病変を起こす常在性のものと呼吸や経口で体内に侵入して障害を及ぼす常在性のものがあります。  
これらはアレルギー反応からではなく、カビ(真菌)自体が原因となって感染症を引き起こします。カビによる感染症は、そのほとんどが病変や何らかの理由で免疫力が低下している人に感染する。このような感染を日和見感染といいます。

◇マイコトキシン中毒症  
マイコトキシンとは、真菌が生産する毒素のことをいい、主にアスペルギルス属のトキシン、パンシウム属のトキシン、フザリウム属のトキシンがある。マイコトキシンは、真菌が増殖できる環境、言い換えれば、真菌の生育によって好環境下で生産されるため水気物を多く含む穀物類(米、ナッツなど)があるところで大量生産されます。この毒素はたんぱく質ではないため、熱に強く、調理しても毒素は分解されません。

◇真菌過敏症  
空中浮遊している真菌の胞子が抗原となつて、気管支喘息、アレルギー性鼻炎、結膜炎、じんましん、アレルギー性皮膚炎、過敏性肺炎などを引き起こします。

シックハウスの原因となる有害な化学物質やカビ、そして悪玉菌など私たちの身の回りには目に見えない危険がたくさん潜んでいます。  
食事や水には気をつけていても、絶えず吸って吸って吸っている空気について意識されている方は少ないのかも知れません。  
免疫住宅では、独自の加工技術で壁紙や床材、家具などで発生する有害な化学物質を中和し悪玉菌を抑え善玉菌を活性化させる塗膜技術で空気環境を整える画期的な技術です。  
(株式会社ウツサークル、IMM-zero株式会社より引用)

上図の同社が月1度発行している「ありがとう通信」においては、毎号代表取締役手書きの「社長のはなし」を掲載し、同社の考え、方針を顧客、協力会社をはじめ同社事業への関係者へ伝えている。

### 3. インパクトの特定

#### (1)バリューチェーン分析

インパクトの特定のため、同社主力事業である「住宅建築事業」、「リフォーム・リノベーション事業」についてそれぞれバリューチェーン分析を実施した。

##### ①「住宅建築事業」

同社住宅建築事業においては、設計から施工、アフターメンテナンスまでを一貫対応している。

主要営業エリアは同社本社の半径 10km のエリアに絞り込んでおり、建築対応時はもちろんのこと、新築後の手厚いアフターフォロー体制が特徴となっている。

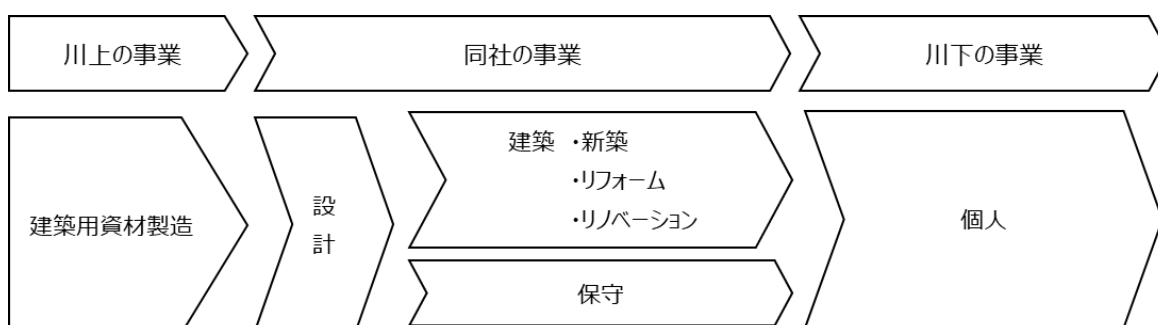
また、同社は不動産業も営んでいるが、不動産業については住宅建築事業の付随事業としての位置づけであり、住宅用造成地を複数軒分取得したうえでモデルハウスを建築し、当該造成地において土地と住宅をあわせて提供する形態を基本としている。

##### ②「リフォーム・リノベーション事業」

同社リフォーム・リノベーション事業では、ガラスの割れ替えからキッチン、トイレをはじめとする住宅設備の入れ替え、築 100 年以上の物件のフルリノベーションに至るまで多種多様な案件に対応しており、年間対応件数は 400 件以上に上る。

顧客の予算にあわせた詳細な見積対応、事前の細やかな調査・診断対応により追加工事の発生を抑制し、顧客満足度の向上、住居における顧客利便性の向上につなげながら住居物件の長寿命化に貢献している。

同社のバリューチェーン図（図は同社提供資料をもとに岐阜信用金庫にて作成）



## (2)インパクトレーダーによるマッピング

先述のバリューチェーン分析の結果をもとに、インパクトマッピングを実施する。

同社の事業および川上・川下の事業を国際産業標準分類（ISIC）上の業種カテゴリに適用させた上、UNEP FI が提供するインパクトレーダーを用いて「ポジティブインパクト」（以下 PI）と「ネガティブインパクト」（以下 NI）を想定する。

同社の事業については「建築工事業（ISIC:4100）」「自己所有物件または賃貸物件による不動産業（ISIC:6810）」を、川上の事業については「建築用木材及び建具製造業（ISIC:1622）」「建築工事業（ISIC:4100）」をそれぞれ適用し、発生するインパクトの検証を行った。

◎：主要カテゴリ ○：関連カテゴリ

国際産業標準分類 インパクトカテゴリ	川上の事業				同社の事業			
	【1622】 建築用木材及び 建具製造業		【4100】 建築工事業		【4100】 建築工事業		【6810】 自己所有物件または賃貸物件による不動産業	
	PI	NI	PI	NI	PI	NI	PI	NI
水								
食糧								
住居	○		◎		◎		○	○
健康・衛生			○	○	○	○	○	○
教育								
雇用	○	○	○	○	○	○	○	○
エネルギー			○	○	○	○		
移動手段								
情報								
文化・伝統				○		○	○	○
人格と人の安全保障				○		○		
正義・公正								
強固な制度・平和・安定								
水（質）		○		○		○		
大気		○		○		○		
土壌				○		○		○
生物多様性と生態系サービス				○		○		○
資源効率・安全性		○		○		○		○
気候		○		◎		◎		○
廃棄物		○		◎		◎		○
包括的で健全な経済	○		○		○		○	
経済収束			○		○			

上表のうち、同社事業における「文化・伝統」「経済収束」については同社事業活動との関連性が希薄と判断され、また、川上の事業は「住居」のみを分析対象とし、その他のカテゴリは同社事業活動が与える影響については軽微なものとなるため、分析を省略している。

## 同社の事業

PI	「住居」「健康・衛生」「雇用」「エネルギー」「包括的で健全な経済」
NI	「健康・衛生」「雇用」「エネルギー」「人格と人の安全保障」 「水（質）」「大気」「土壌」「生物多様性と生態系サービス」「資源効率・安全性」 「気候」「廃棄物」

### 【社会面】

#### ◆「住居」

建物の建設、既存物件のリフォーム・リノベーションにより、都市空間が創出されるという PI が発現する。

同社では高品質な住宅の新築に加え、営業エリアを半径 10 km以内とすることで身近に相談できる建築会社として既存物件のリフォーム・リノベーション、メンテナンスサービスを充実させ、長く快適に住み続けられる住宅を提供することで主要営業エリアにおける PI の拡大に貢献している。

上記は SDG11「住み続けられるまちづくりを」に該当する。

#### ◆「健康・衛生」

住環境により居住者の健康や福祉が支えられるという PI が発現する一方、住環境の形態によっては居住者の健康や福祉が害されるという NI が発現する。

同社では住宅で使用する木材・建材・クロス等の素材に含まれる水分(結合水)に水溶性の 2 種類の鉄(Fe<sup>2+</sup>・Fe<sup>3+</sup>)ミネラルを含浸させる「FFCテクノロジー」を活用した免疫住宅の提供により、住環境に健康を求める顧客層への対応を実現しており同カテゴリにおける PI 拡大に努めている。

上記は SDG3「すべての人に健康と福祉を」、SDG11「住み続けられるまちづくりを」に該当する。

□「3.9：2030 年までに、有害化学物質や大気・水質・土壌の汚染による死亡や疾病の数を大幅に減らす。」

#### ◆「雇用」

従業員の雇用の創出という PI と、労働形態によっては労働者の健康状態が脅かされるという NI が発現する。

同社では定年制度の廃止により、従業員の希望に応じて長く勤められる環境を整備すること雇用創出の PI 拡大に努めている。また、同社では営業から設計、現場監督といった業務を同一担当者が実施し、実際に施工を担当する協力会社とコミュニケーションを取りながら施工を完遂していく必要がある中で、複数業務を横断的に実施するためのスキルアップを支援し、PI の拡大に努めている。このスキルアップ支援は多能工化への取り組みとなり、多能工化により工

量、施工スケジュールにあわせた適切な人材投入を可能とし作業負荷の分散を通じてNIの低減に努めている。

上記はSDG8「働きがいも経済成長も」に該当する。

- 「8.5：2030年までに、若者や障害者を含むすべての女性と男性にとって、完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい仕事を実現し、同一労働同一賃金を達成する。」
- 「8.8：移住労働者、特に女性の移住労働者や不安定な雇用状態にある人々を含め、すべての労働者を対象に、労働基本権を保護し安全・安心な労働環境を促進する。」

#### ◆「人格と人の安全保障」

労働環境によっては従業員の安全が守られないというNIが発現する。

同社では安全管理の徹底に取り組み、次の現場5ヶ条を掲げNIの低減に努めている。

【現場5ヶ条】

- ①現場での整理整頓 ②建物内の禁煙 ③スリッパ設置（土足禁止）
- ④大きな音でのラジオ ⑤車両のアイドリング等（他の車の通行及び近隣に迷惑のないように気を付ける）

上記はSDG8「働きがいも経済成長も」に該当する。

- 「8.8：移住労働者、特に女性の移住労働者や不安定な雇用状態にある人々を含め、すべての労働者を対象に、労働基本権を保護し安全・安心な労働環境を促進する。」

#### 【環境面】

##### ◆「エネルギー」

建物の設計、建築方式によっては省エネに寄与する可能性があるというPIと、設計、建築方式によってはエネルギー効率を損なうというNIが発現する。

同社では壁や天井を最大限に活用し、エアコンを使わず室内環境を最適化する次世代型冷暖システムである光冷暖の家づくり、全館空調でありながら優れた省エネ効果を誇るZ空調を用いた家づくりなど、顧客のニーズにあわせた省エネ住宅の提供を通じてPIの拡大に努めている。また、この省エネ住宅建設の推進により、住居におけるエネルギー効率を高めることでNIの低減に努めている。

上記はSDG7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、SDG13「気候変動に具体的な対策を」に該当する。

- 「7.3：2030年までに、世界全体のエネルギー効率の改善率を倍増させる。」

##### ◆「水（質）」、「大気」、「土壌」、「生物多様性と生態系サービス」、「資源効率・安全性」、「気候」、「廃棄物」

住宅工事における廃材の発生や、既存物件の取り壊し時に発生する廃棄物の発生、非効率な工事の実施による過剰なエネルギー利用により環境カテゴリにおけるNIが発現する。

同社では新築住宅案件における廃材低減への取り組みに加え、リフォーム・リノベーション案件への積極的取り組み、同社にて建築した住宅の定期的なメンテナンス対応により住宅の長寿命化を図っており、また協力会社との連携体制により効率的工事進行に加え、現場で発生する汚水処理、廃棄物の分別・リサイクルについても適切に対処することで NI の低減に努めている。

上記は SDG12「つくる責任つかう責任」該当する。

- 「12.5：2030 年までに、廃棄物の発生を、予防、削減（リデュース）、再生利用（リサイクル）や再利用（リユース）により大幅に減らす。」

#### 【経済面】

##### ◆「包括的で健全な経済」

事業活動により地域経済が活性化するという PI が発現する。

同社では今後、営業エリアにおける人口動向をはじめとする環境変化に合わせながらの新築住宅建築、リフォーム・リノベーション案件のバランスを考慮しながらの安定した事業展開を図っていく方針であり、また地域交流イベントを通じて地域の子どもたちが職人技術に触れる機会を創出していくことで地域経済の活性化を図り、PI 拡大に努めている。

上記は、SDG9「産業と技術革新の基盤をつくろう」、SDG11「住み続けられるまちづくりを」に該当する。

#### 川上の事業

PI	「住居」
----	------

#### 【社会面】

##### ◆「住居」

建物の建設、既存物件のリフォーム・リノベーションにより、都市空間が創出されるという PI が発現する。

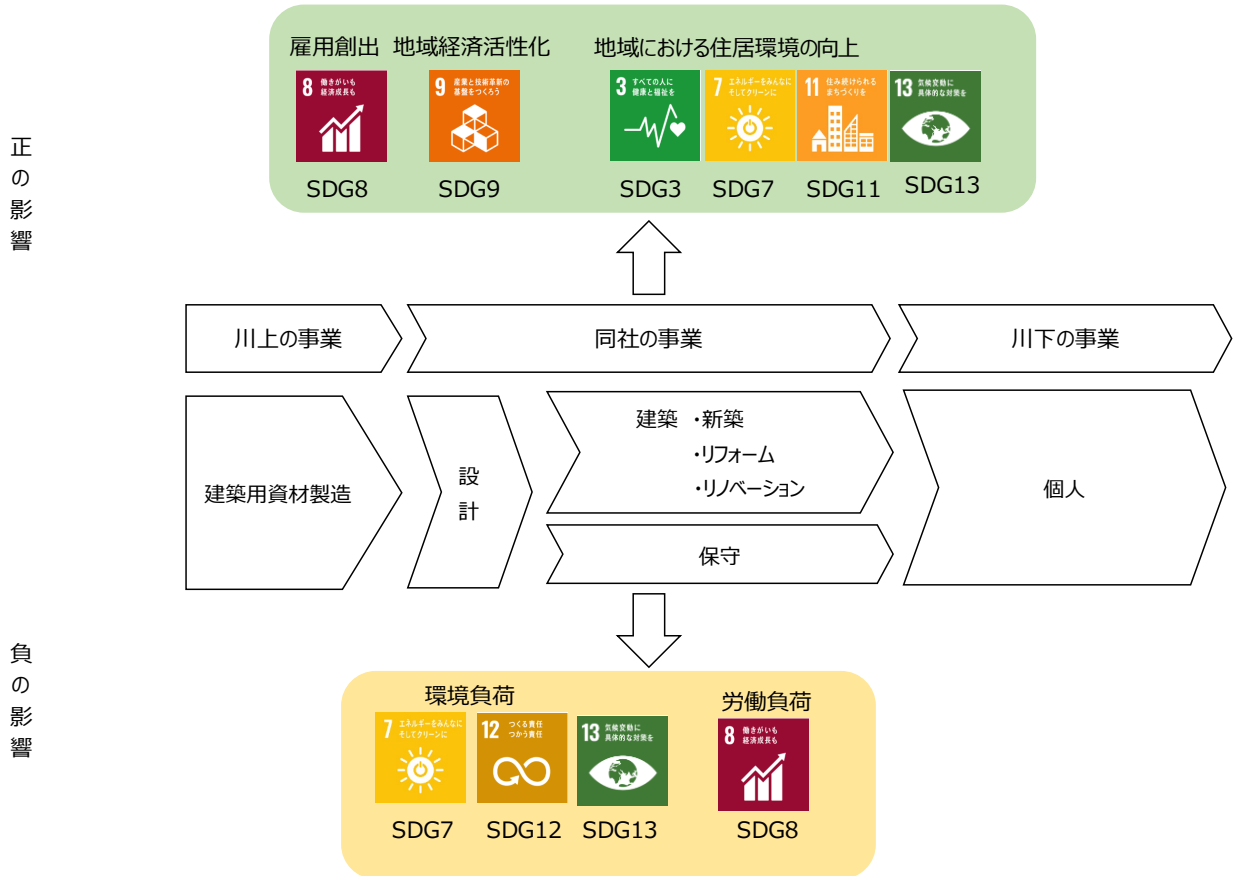
同社では、木造建築に特化した専門店として居住者のニーズに応え組み合わせ、顧客 1 世帯 1 世帯の理想の住まいの実現へと取り組んでいるおり、同社の設計に基づき協力会社との連携により、理想の住居を完成させることで PI の拡大に貢献している。

上記は SDG11「住み続けられるまちづくりを」に該当する。



(3)特定したインパクト

下図は「バリューチェーン分析」「インパクトマッピング」の結果を踏まえて、同社のバリューチェーンが与えるインパクトを可視化したものである。



以上を踏まえて同社のインパクトを下記の4つに特定した。

【重要なインパクト】

- 「新築案件におけるホリモク流ゼロエネルギーハウス建築の推進」
- 「リフォーム・リノベーション案件への更なる対応力強化」
- 「ホリモク村の継続開催をはじめとした地域コミュニティの活性化」
- 「従業員の横断的対応スキルアップ支援を通じた地域雇用の維持・創出」

① 新築案件におけるホリモク流ゼロエネルギーハウス建築の推進：SDG3、7、11、12、13

同社では木造建築に特化した専門店として免疫住宅や空調のいらぬ家、全館空調の家など顧客ニーズにあわせた新築住宅の提供により、主要営業エリアにおける住居環境の整備、住民の健康・福祉の増進、過剰なエネルギー消費の抑制へと貢献してきている。

他方、将来を見据えると、同社営業エリアにおいても少子高齢化が進行し、新築案件総数が減少傾向にある中で新築住宅建築コストは原材料費を中心に上昇しており、同業他社との競争が激化している。

このなかで、同社においては価格の上昇以上の商品価値の向上を目指す方針を設定しており、全館空調、制振、免疫、エコワン給湯器による安全、快適、健康、省エネすべてに対応した住居である「ホリモク流ゼロエネルギーハウス」建築の推進を目指していく。

近年、一般的にゼロエネルギーハウスとして普及が進められている「ZEH」とは、net Zero Energy House（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）の略語で、「エネルギー収支をゼロ以下にする家」という意味であり、家庭で使用するエネルギーと、太陽光発電などで創るエネルギーをバランスして、1年間で消費するエネルギーの量を実質的にゼロ以下にする家と定義されている。

これに対し、同社の目指す「ホリモク流ゼロエネルギーハウス」は、「お客様の丁度いいを叶える住宅」として、同社が提供可能としている各種住宅機能のなかから顧客ニーズに最適なものを選定・提案するとともに、機能追加により発生する住宅建築のインシャルコスト上昇を太陽光発電や省エネ効果をはじめとする機能を通じたランニングコストの低減にて吸収し、顧客の家計への負担増加を回避するものである。

「ホリモク流ゼロエネルギーハウス」建築の推進に向けては、顧客1世帯1世帯のニーズにあわせた提案力を引き続き強化していくことが最重要項目となるが、そのなかでゼロエネルギーハウスに用いる各種住宅機能の効果を顧客が体感できる場として同社の提供する新築住宅のベースとなる5つのコンセプト（中庭のある家、スキップフロアの家、ガレージのある家、スモールハウス、家事収納の家）に対応したモデルハウスをより効果的に活用していくとともに、既存顧客を大切にすることでの口コミ、紹介を図っていくことを重要視し、従業員教育を含め対応していく方針としている。

この「ホリモク流ゼロエネルギーハウス」の提供増加を図っていくことで、居住者の住居環境の向上を通じた健康・福祉の増進、エネルギー使用量の抑制への貢献を強化していく。

これらのインパクトはUNEP FIのインパクトリーダーでは「住居」「健康・衛生」「エネルギー」「気候」のカテゴリに該当し、社会的側面、環境的側面のPIを拡大し、環境的側面のNIを緩和すると考えられる。

## ② リフォーム・リノベーション案件への更なる対応力強化：SDG3、11、12

同社では新築案件への対応のみでなく、リフォーム・リノベーション案件にも年間400件以上に対応し、地域における住居環境の改善、住民の健康・福祉の増進に貢献するとともに、住宅の長寿命化を通じた環境負荷の低減に寄与している。

今後、新築案件総数の減少傾向が見込まれる中でリフォーム・リノベーション案件の受注数確保は同社にとって重要な経営課題となり、同社売り上げにおけるリフォーム・リノベーション事業の比率を増加させていく方針としている。

リフォーム・リノベーション案件の増加に向けては、既存顧客リストをもとにした住宅に関する相談事項に限らないコミュニケーションを通じた営業活動に加えて、同社以外で建築した物件のリフォー

ム案件獲得に向けたチラシやイベント活動等の広報活動の在り方を見直し強化していく方針としている。

また、リフォームにあたり現場調査、見積提示、契約など案件対応の節目節目での顧客との関係性強化に向けた対応の強化に向け、従業員の接客対応、各業務への横断的な対応力強化に向けたスキルアップ支援を実施していく。

これらにより、地域内におけるリフォーム・リノベーション案件の受注数を増加させていくことで、住居環境の改善を通じた健康・福祉の増進、住居の長寿命化により不要な建て替え等を削減していくことでの環境負荷の低減への同社の貢献を強化していく方針である。

これらのインパクトは UNEP FI のインパクトレーダーでは「住居」「健康・衛生」「資源効率・安全性」「廃棄物」のカテゴリに該当し、社会的側面の PI を拡大し、環境的側面の NI を緩和すると考えられる。

### ③ ホリモク村の継続開催をはじめとした地域コミュニティの活性化：SDG9

同社では地域密着型営業を志向し、本社から半径 10km 圏内を主要営業エリアとして設定し、商圏内の住民とのコミュニティ形成を重要視した事業活動を展開している。

この事業活動の中では地域内神社の除草作業などボランティア活動等も積極的に実施しているが、代表的なものとして挙げられる取り組みが体験型イベントである「ホリモク村」であり、同イベントの開催によって地域の活性化に貢献している。

この「ホリモク村」では、地域内事業者によるキッチンカー来店等を通じた地域経済活性化への貢献に加え、同社従業員および同社協力会社職人による地域の子どもたちへの職人技術を用いた工作体験を提供しており、イベントを通じて建築業の魅力を発信することで将来職人を目指す層の発掘に貢献している。

1000 人を超える人が訪れるイベントを継続的に開催することは、お客様と直接面談する機会の創出につながり、同社の魅力を発信するとともに継続的な住宅相談につなげていく方針である。イベントを通じた地域内交流は同社のファンづくりにつながり、継続的な受注確保が見込まれる。

今後についても、実施内容に見直しを加えながら継続的に開催し、地域内の交流人口の増加、地域における同社のファンづくりを通じた安定した受注確保につなげていく方針である。

これらのインパクトは UNEP FI のインパクトレーダーでは「包括的で健全な経済」のカテゴリに該当し、経済的側面の PI を拡大すると考えられる。

### ④ 「地域雇用の維持・創出に向けた従業員スキルアップ」：SDG8

同社では、従業員には営業から設計、現場監督といった複数業務を横断的に実施できるためのスキルアップを支援しており、定年制度を設けず長くやりがいをもって働き続けられる環境を整備することで少数精鋭ながら手厚い顧客対応を実現するとともに、地域における雇用の維持・創出に貢献してきた。

今後、ホリモク流ゼロエネルギーハウス建築の推進やリフォーム・リノベーション案件への更なる対応力強化を図っていくにあたり、従業員の更なる複数業務への横断的対応スキルの向上が必要となり、業務内外の両面からスキルアップ支援を実施していく方針である。

この取り組みを通じて、同社の目指す手厚い顧客対応を実現する従業員の育成について体系化、標準化を図り、将来の人員増強局面での人材確保、育成、定着につなげていく計画であり、これによって地域雇用の創出に貢献していく。

これらのインパクトは UNEP FI のインパクトレーダーでは「雇用」のカテゴリに該当し、社会的側面の PI を拡大すると考えられる。

#### (4)インパクトニーズの確認

##### ① 日本におけるインパクトニーズ

同社売上高の大半は日本国内におけるものであり、国内における SDG インデックス&ダッシュボードを参照し、そのインパクトニーズと同社のインパクトとの関係性を確認した。

本 PIF において特定したインパクトに対応する SDGs のゴールは、以下の 7 点である。

「 3 : すべての人に健康と福祉を」

「 7 : エネルギーをみんなにそしてクリーンに」

「 8 : 働きがいも経済成長も」

「 9 : 産業と技術革新の基盤をつくろう」

「11 : 住み続けられるまちづくりを」

「12 : つくる責任、つかう責任」

「13 : 気候変動に具体的な対策を」

国内における SDG ダッシュボード上では、「9」に関しては「達成に近づいている」とされているものの、「12」、「13」に関しては「大きな課題が残る」、「7」、「8」に関しては「重要な課題が残る」、「3」、「11」に関しては「課題が残る」とされており、同社における環境に配慮した新築住宅建築・リフォーム・リノベーション事業の展開、地域交流の場と地域子どもたちにおける職人技術へのふれあいの場の創出などの取り組みが、日本国内におけるインパクトニーズと一定の関係性があることを確認した。



(出典 : SDSN)

## ② 岐阜県におけるインパクトニーズ

同社の事業活動は立地する岐阜県を中心に行われていることから、「岐阜県 SDGs 未来都市計画」を参照し、岐阜県内における SDGs 達成に向けての課題を確認した。

下記の通り、岐阜県では「<環境>美しい清流とそれを育む豊かな森の保全と活用」、「<経済>「清流の国ぎふ」ブランドと変化に強い地域経済の確立」、「<社会>誰もが活躍し生きがいを感じられる地域社会の構築」を 2030 年のあるべき姿と設定し SDGs 達成に向けた課題を設定しており、同社における環境に配慮した新築住宅建築・リフォーム・リノベーション事業の展開、地域交流の場と地域の子どもたちにおける職人技術へのふれあいの場の創出などの取り組みが、岐阜県におけるインパクトニーズと一定の関係性があることを確認した。

### 岐阜県 第2期SDGs未来都市計画の概要

#### 計画の位置付け

- ・内閣府に「SDGs未来都市」として選定された自治体が2030年のあるべき姿を実現するための、環境・経済・社会の3側面の取組みを具体化したアクションプラン。
- ・第1期計画が令和4年度で終了することから、第2期(令和5年度～令和7年度)計画を策定。

#### 地域特性

##### ①岐阜県の特徴

- 豊かな自然環境**
  - ・豊かな森林と美しい清流に恵まれた「山紫水明」の地(森林面積、河川延長は全国屈指)
  - ・これらは岐阜県が優位性を有する「自然資本」
- 「豊かな自然」が育んだ魅力あふれる地域資源**
  - ・豊かな自然から得た地域資源を確に各地域で独自の生活様式や文化を形成
  - ・世界農業遺産「長良川システム」の認定(2015年)
  - ・「清流」が織りなす文化、食、営みにより本県は「清流の国」と呼ばれるアイデンティティを確立
- 多彩な農林畜水産物**
  - ・多彩な農林畜水産物の生産(ほうれんそう、トマト、柿、栗、飛騨牛、東濃柿等)
- 多様なものづくり(伝統工芸から先端産業まで)**
  - ・多様な製造業が集積(飛騨の家具、関の刃物、美濃和紙、美濃焼、電気機械・工作機械などの製造業、航空宇宙産業等)
- 魅力的な観光地とインバウンド**
  - ・魅力的な観光資源(白川郷、下呂温泉、飛騨高山、長良川鶴岡、関ヶ原、地歌興夜等)
  - ・サステイナブル・ツーリズムの推進
  - ・世界の持続可能な観光地100選【白川村(2020年)、長良川流域(2021年)、下呂市・下呂温泉(2022年)】
  - ・「NEXT Gifu HERITAGE～岐阜未来遺産～」認定制度の創設
- ②岐阜県の人口**
  - ・総数と予測> 201万8千人(2020年)→197万9千人(2020年)→136万7千人(2050年)
  - ・年齢構成の予測>2050年:生産年齢人口(15～64歳)は5割まで減少、高齢人口(65歳以上)は4割増

#### 今後取り組む課題

- ・少子高齢化に対応した地域活性化が必要
- ・アフターコロナを見据えたDX、GXなどの推進が必要
- ・気候変動や環境問題等、フロンティア・バウンダリーへの視点での対応が必要

#### 2030年のあるべき姿

##### 自然と人が創り出す 世界に誇る「清流の国ぎふ」

【あるべき姿】を実現するための共通認識

- ・森林や清流などの豊かな自然は、全国・世界にも誇れる本県ならではの「自然資本」
- ・各地域が特徴を活かし、地域内で財やエネルギーが循環する「地域循環共生社会」を形成すべき
- ・SDGsは地球で暮らす一人ひとりが最低限確保すべきマナーと理解すべき

**<環境> 美しい清流とそれを育む豊かな森の保全と活用**

- ・「脱炭素社会ぎふ」の実現
- ・自然環境や生物多様性の保全と産業等での活用の両立
- ・資源循環型社会の形成
- ・自然災害への対策の構築

**<経済> 「清流の国ぎふ」ブランドと変化に強い地域経済の確立**

- ・伝統産業や農林水産業の世界的評価を獲得
- ・サステイナブル・ツーリズムの確立
- ・DXによる産業分野の競争力の発揮
- ・コロナ等社会経済情勢の変化に強い産業の確立

**<社会> 誰もが活躍し生きがいを感じられる地域社会の構築**

- ・多様な人材の活躍
- ・人口減少下でも活力ある地域社会の構築
- ・子育て支援等福祉医療の充実
- ・デジタル社会、SDGs、グローバル社会に対応した教育の展開

#### 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット

環境	経済	社会
<p>・「脱炭素社会ぎふ」の実現、自然環境・生物多様性の保全、資源循環型社会の形成を目指す。</p> <p>【KPI(指標)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・温室効果ガス総排出量</li> <li>・家庭一世代当たりのエネルギー消費量</li> <li>・一般/産業廃棄物排出量</li> <li>・人工造林面積(両辺林等)</li> </ul>	<p>・デジタル技術を活用したビジネス変革の推進、多様な人材の確保・定着等、社会経済情勢の変化に強い産業構造を目指す。</p> <p>【KPI(指標)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業産出額</li> <li>・林業産出額</li> <li>・従業員一人当たりの付加価値額</li> <li>・観光消費額</li> <li>・一人当たり県民所得</li> </ul>	<p>・一人取り残されることなく活躍できる人口減少下でも活力ある地域社会を目指す。</p> <p>【KPI(指標)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・くらしの満足度</li> <li>・合計特殊出生率</li> <li>・労働力率</li> <li>・移住者数(累計)</li> </ul>
<p>※目標値は27に記録</p>		
<p>※目標値は29に記録</p>		
<p>※目標値は30に記録</p>		
<p><b>ゴール、ターゲット実現のため「オール岐阜」でSDGsを推進</b></p> <p>・県民一人ひとりがSDGsの理念や意義を理解し、その達成に向け行動する社会を目指す。</p> <p>【KPI(指標)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県民のSDGs達成に向け行動に移した割合 52.8%(2022年度) → 80.0%(2030年度)</li> <li>・「清流の国ぎふ」SDGs推進ネットワーク会員数 924会員(2021年度) → 1,650会員(2025年度)</li> <li>・新たな登録制度の登録事業者数(累計) ー ー → 600企業・団体(2025年度)</li> </ul>		

**持続可能な「清流の国ぎふ」づくり**

- <環境>** 温室効果ガス削減、自然と人が共生できる社会の確立、等
- <経済>** デジタル技術を活用したビジネス変革、社会経済情勢の変化に強い経営体質等へのシフト、等
- <社会>** 誰もが活躍でき生きがいを得られる社会的包摂、デジタル化やSDGsといった課題に対応できる教育、等

これらに「オール岐阜」での取組みが不可欠

(出典：岐阜県第2期SDGs未来都市計画の概要)

20

### ③ 岐阜信用金庫との親和性

#### ◆「ぎふしん SDGs 宣言」

以下の 3 項目を SDGs 達成に向けた重点課題としている。

- (1) 持続可能な地域の経済成長のための活動
- (2) 持続可能な地域産業の基盤構築のための活動
- (3) 持続可能なまちづくりのための活動

#### ◆親和性の確認






本件 PIF の取り組みに際し特定した当社のインパクトである「新築案件におけるホリモク流ゼロエネルギーハウス建築の推進」については、「ぎふしん SDGs 宣言」の(1)、(2)、(3)と、「リフォーム・リノベーション案件への更なる対応力強化」については「ぎふしん SDGs 宣言」の(1)、(2)、(3)と、「ホリモク村の継続開催をはじめとした地域コミュニティの活性化」については、「ぎふしん SDGs 宣言」の(3)と、「地域雇用の維持・創出に向けた従業員スキルアップ」は、「ぎふしん SDGs 宣言」の(2)と親和性があり、相互に協力しあうことで、「経済」「社会」「環境」の 3 つの側面に渡り、持続可能な開発に関する枠組みとして、良質な効果が発生するものと思われる。

以上から、本 PIF の取組みは追加性のある PI 創出支援を行うものであり、その本源的目的との合致を確認したうえで SDGs 達成に向けた資金需要と資金供給とのギャップを埋めることを目指すものである。

#### 4. KPI の設定




特定したインパクトの発現状況を今後も継続的に測定可能なものとするため、先に特定したインパクトに対し、インパクトの種類、インパクトカテゴリ、関連する SDGs、内容・対応方針および目標と KPI を整理、設定する。

##### ■新築案件におけるホリモク流ゼロエネルギーハウス建築の推進


項目	内容
インパクトの種類	社会的側面、環境的側面においてポジティブインパクトを拡大 環境的側面においてネガティブインパクトを緩和
インパクトカテゴリ	「住居」「健康・衛生」「エネルギー」「気候」
関連する SDGs	    
内容・対応方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>顧客 1 世帯 1 世帯のニーズにあわせた提案力の強化の継続。</li> <li>モデルハウスを活用した「ホリモク流ゼロエネルギーハウス」の魅力、機能性の可視化の推進。</li> <li>既存顧客との継続的なコミュニケーション強化を通じた口コミ、紹介案件の獲得。</li> <li>上記を通じて、年間新築案件数を確保しながら、新築案件における「ホリモク流ゼロエネルギーハウス」の割合を引き上げていく。</li> </ul>
目標と KPI	<ul style="list-style-type: none"> <li>2030 年 7 月期において、年間新築案件における「ホリモク流ゼロエネルギーハウス」の割合を年間 15 棟（全体の約 80%）へ引き上げる。</li> </ul>



■リフォーム・リノベーション案件への更なる対応力強化

項目	内容
インパクトの種類	社会的側面においてポジティブインパクトを拡大 環境的側面においてネガティブインパクトを緩和
インパクトカテゴリ	「住居」「健康・衛生」「資源効率・安全性」「廃棄物」
関連する SDGs	  
内容・対応方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存顧客リストをもととした住宅に関する相談事項に限らないコミュニケーションを通じた営業活動の実施。</li> <li>・リフォーム案件獲得に向けたチラシやイベント活動等の広報活動の継続的な改善の実施。</li> <li>・上記取り組みを通じて、住宅機能向上に資する中～大型リノベーション案件の受注件数増加を目指していく。</li> </ul>
目標と KPI	・2030 年 7 月期において、リフォーム・リノベーション事業売上高を 2022 年 7 月期規模の 1 億円から 3 億円規模へ成長させる。

■ホリモク村の継続開催をはじめとした地域コミュニティの活性化

項目	内容
インパクトの種類	経済的側面においてポジティブインパクトを拡大
インパクトカテゴリ	「包括的で健全な経済」
関連する SDGs	
内容・対応方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1 年に 2 度のホリモク村の継続開催、開催内容の継続的な見直し、改善。</li> <li>・上記を通じて地域内の同社のファンづくりを推進する。</li> </ul>
目標と KPI	・2030 年 7 月期において、同社提供イベント「ホリモク村」における地域内交流人口年間 1,200 名規模を継続達成する。

■ 地域雇用の維持・創出に向けた従業員スキルアップ

項目	内容
インパクトの種類	社会的側面においてポジティブインパクトを拡大
インパクトカテゴリ	「雇用」
関連する SDGs	 <p>8 働きがいも 経済成長も</p>
内容・対応方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従業員の更なる複数業務への横断的対応スキル向上に向けた業務内外でのスキルアップ支援の実施</li> <li>・従業員育成における体系化、標準化の推進</li> <li>・上記を通じて、既存従業員の対応力強化を実現するとともに、将来の人員増強局面での人材確保、育成、定着につなげていく。</li> </ul>
目標と KPI	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2030 年 7 月期において、雇用者数を 2022 年 7 月期より 7 名増加させる。</li> </ul>

## 5. モニタリング

### (1)堀伊木材におけるインパクトの管理体制

同社では、堀社長を中心に自社業務の棚卸を行い、本 PIF におけるインパクトの特定、並びに KPI の設定を行った。

今後については、以下の体制を中心とした同社プロジェクトチームが柱となって SDGs の推進、本 PIF で設定した KPI の進捗管理を行っていく方針である。

#### 【モニタリング体制】

統括責任者	代表取締役社長	堀 統行
-------	---------	------

### (2)当金庫によるモニタリング

本 PIF で設定した KPI および進捗状況については、同社と岐阜信用金庫の担当者が定期的な場を設けて情報共有する。情報共有については、少なくとも年に 1 回実施することに加え、日々の情報交換や営業活動を通じて実施していく。

### (3)モニタリング期間

下記の通り融資返済期限と同一期間にて定める。

モニタリング期間 (返済期限)	7 年間 (2030 年 6 月 26 日)
--------------------	---------------------------

**【留意事項】**

1. 本評価書の内容は、岐阜信用金庫が現時点で入手可能な公開情報、堀伊木材株式会社から提供された情報や同社へのインタビューなどで収集した情報に基づいて、現時点での状況の評価したものであり、将来における実現可能性、ポジティブな成果等を保証するものではありません。
2. 岐阜信用金庫が本評価に際して用いた情報は、岐阜信用金庫がその裁量により信頼できると判断したものであるものの、これらの情報の正確性等について独自に検証しているわけではありません。岐阜信用金庫は、これらの情報の正確性、適時性、網羅性、完全性、および特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何ら表明または保証をするものではありません。
3. 本評価書に関する一切の権利は岐阜信用金庫に帰属します。評価書の全部または一部を自己使用の目的を超えての使用（複製、改変、送信、頒布、譲渡、貸与、翻訳及び翻案等を含みます）、または使用する目的で保管することは禁止されています。